



(一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団
Asia Africa International Voluntary Foundation

2013年度活動報告書

Annual Report 2013



目次

●団体概要	1
●活動地域紹介	2
●活動地① インド アグラ ロパ・ムドラ学校	3
～「奈良まつぼっくり&ロパわらべうた交流」を開始～	
●活動地① インド アグラ ロパ・ムドラ学校	4
～校舎修繕事業～・～教師への給与支援～	
●活動地① インド アグラ ロパ・ムドラ学校	5
～職業訓練コースの本格的な開始～	
～課外授業への支援～	
●活動地② インド ベンガルール	
ストリートチルドレンが暮らす施設の支援開始	6
●活動地③ ウガンダ 学校運営の継続	7
●職員活動報告 インド カルカラの施設訪問	8
●壺阪寺聚徳会職員によるインド研修	9
●各地支援経費報告	10

一般財団法人 アジア・アフリカ国際奉仕財団とは？

当財団は1989年に設立された一般財団法人です。1970年代に壺阪寺先代住職常盤勝憲師が、インドハンセン病患者への救済活動を行ったのがきっかけです。現在に至るまでインド、ウガンダを中心に教育支援や障がい者支援を行っています。

団体概要	
正式名称	一般財団法人 アジア・アフリカ国際奉仕財団
設立年月日	1989年11月6日
活動対象国、地域	インド（5か所）、ウガンダ（1か所）
理事長	平岡昇修
海外における主な協力団体	サンプルナ（インド ベンガルール）

歴史的経緯	
1970年ごろ	壺阪寺先代住職常盤勝憲師がインドにてハンセン病患者への救済活動を行っていた宮崎松記博士の支援を始める。活動地の敷地内でインド人医師デシカン氏の妻が青空教室を始める。敷地内に小学校の校舎建設を行う。
1977年	南インドカルカラにて石材、石彫事業の支援を始める。
1995年	ウガンダ ンゴビャ学校の支援を開始。
2001年	南インドチェンナイにて障害者支援や奨学金事業を始める。2004年からはベンガルールに活動拠点を移す。
2009年	ロパ・ムドラ学校にて母親たちの支援を始める。
2013年より	ロパ・ムドラ学校にて「奈良まつぼっくり&ロパわらべうた交流」を始める。
2015年	活動50周年を迎える。

2013年4月より一般財団法人になりました。

当財団は2013年4月より一般財団法人になりました。当財団は奈良県に申請を行い運営を行っています。今後は活動地域の人々への支援だけでなく今まで以上に日本でも(奈良県にお住まいの方に)国際協力や途上国について知るための機会を提供していきます。

活動地域と支援内容

インド

- ◎学校支援
- ◎奨学金事業
- ◎障がい者支援施設支援
- ◎女性の自立支援
- ◎石材、石彫事業支援



ウガンダ

- ◎学校運営支援



日本

- ◎啓発活動
- ◎文化交流支援
- ◎奨学金事業



活動地①

インド アグラ ロパ・ムドラ学校

■2013年度の新たな取り組み①

「奈良まつぼっくり＆ロパわらべうた交流」

2013年度の新しい取り組みとして、奈良県内で主に活動している「まつぼっくり少年少女合唱団」(NPO法人音楽の森)と一緒に、ロパ・ムドラ学校の子どもたちと音楽の授業を行っています。

日本では音楽や体育といった授業も大切な情操教育の一環として学校教育に組み込まれています。インドにおいても、インド映画に象徴されるように歌や踊りは人気があり音楽は生徒が好きな授業です。

一方でインドでは音楽の授業は行うことになっていますが、慢性的に先生が不足しており定期的な授業が行われないという問題があります。ロパ・ムドラ学校も例外ではなく、2013年5月に音楽の先生が退職され、授業が行われずにいました。

そこで、2013年12月に「まつぼっくり少年少女合唱団」を主宰する荒井敦子先生と、メンバーである高校生3名が学校で授業を行いました。

久しぶりに行われた授業に子どもたちは積極的に参加し、全部で2時間近い授業を楽しみました。

その後今後も引き続き音楽教育の向上と文化交流を行うことに決め「奈良まつぼっくり＆ロパわらべうた交流」を行うこととなりました。

ロパ・ムドラ学校でも新年度より新たに音楽の先生を雇用する予定です。



■2014年度活動計画

2014年12月に「奈良まつぼっくり＆ロパわらべうた交流」及び、コンサートを行う予定。

■2013年度の新たな取り組み②

「校舎修繕事業」

インドの校舎は日本の校舎と異なり、床がコンクリートのうちっぱなしで空調も十分ではありません。そのため40℃近い夏の暑い時期や10℃近く霧の多い真冬の時期は授業を受けるのも大変です。（もちろん気候の厳しいときは先生の判断によって授業時間をずらすなどの対応を取っています）また、1980年代に行った修繕から時間が経ち、ペンキが剥がれるなど老朽化していました。

そんな中、2010年ごろより「学校の校舎が老朽化しているため修繕をしてほしい」という話が学校よりあり、2011年度に実施する計画を立てていました。しかし3月11日に東日本大震災が起き、学校から「校舎の修繕費用を被災地に送ってほしい」という希望があり2011年度は修繕を見送りました。

そして、2013年度に校舎の修繕を行うこととなりました。修理は主に学校が休みである夏休みや冬休みを利用して行いました。

1年生から4年生が使う教室と、コンピュータ教室の床にタイルを貼り、照明を新しくし、校舎が雨漏りなどしないようペンキを塗りました。

校舎の修繕が済んだことで、職業訓練の美容員コースも開始出来るようになりました。



修繕前



修繕後

■2013年度の新たな取り組み③

「教師への給与支援」

インドの一般的な給与は日本円で25,000円(都市部)程度と言われています。公立学校の職員の給与も25,000円程度です。その中で、ロパ・ムドラ学校の先生方の平均給与は約7,000円。公立学校の給与と比べて非常に賃金が低いのは「地域の貧しい子どもたちに読み書きを教えたい」という設立当初の思いを知っている先生方のボランティア意識が高いため、現在の給与で運営を行っていました。

しかし、たび続くインフレで現在の先生方の給与では生活が苦しいという意見がありました。また、私立学校のため子どもたちに人気のある熱心な先生ほど他校に引き抜かれるなどの問題がありました。

そこで、2013年度より先生方の給与の増額を行うことにしました。平均で約2,600円を増額し、9,500円になりました。

当財団は情熱を持って教えている先生方を、今後も支援したいと考えています。

■継続した支援①

「職業訓練コース」

ロバ・ムドラ学校は貧しい地域にある学校です。そのため学費を払うことが出来ない生徒が多く、問題となっていました。そこで、2009年9月より意欲のある母親を中心に学校の敷地で小物づくりを始めました。一方で、裁縫の先生がいらないため専門的な技術がつかなかったり、学校の先生方に放課後手伝ってもらわないといけないなどという問題がありました。

そこで、2012年に学校側で裁縫の先生をお招きし、学校を卒業した元生徒や母親を対象に職業訓練コースを始めたいという意見が出てきました。そして2013年より裁縫コースが始まりました。3か月のコースを修了し試験に合格すると政府の許可証がもらえるため就職に有利になります。2014年7月からは美容員コースも始まりました。

彼ら自身で運営し、それぞれが仕事を見つけていくという仕組み作りのきっかけを作ることができました。

主な取り組み	
2009年9月	15人の母親たちとビーズなどで小物づくりを始める（「ワンコインプロジェクト」の開始）
2010年2月	参加者が25名となる。売り上げを学費や生活費に充てられるようになる
2010年9月	参加者が35名となり、日本国内でも販売先が増える。
2012年10月	職業訓練コースを始めたいと学校より申し出がある
2012年12月	裁縫コースの試行
2013年3月	裁縫コースの正式スタート（政府の許可証がもらえるようになる）
2013年12月	「1 コインプロジェクト」の終了
2014年7月～	美容員コースの開始

■継続した支援②

「課外授業への支援」

インドの授業は日本に比べて学習速度が速く、小学4年生の算数で関数を習います。また通常の授業は一斉に教えるため、苦手な部分や意欲のある子を伸ばす時間を持つことができません。また家庭的な事情で家庭教師を雇うことなどは容易ではありません。

そこで、放課後に学校の敷地を使い課外事業を行っています。友達と輪になり勉強することで楽しみながら勉強しています。今後も支援をしていく予定です。

■2014年度活動計画

- 1) 職業訓練コース支援 ①裁縫コース支援 ②美容員コース支援
- 2) 課外授業支援

■2013年度の新たな取り組み

「ストリートチルドレンが暮らす施設の支援」



2013年よりストリートチルドレンや家庭に問題のある子どもが暮らす施設の支援を始めました。

ベンガルールは849万人が暮らすインド第5の都市です。近年ではトヨタをはじめとするさまざまな日系企業が進出している都市でもあります。その一方で貧困の差が激しく、路上での生活を余儀なくされている子どもや貧しいため学校に通うことが難しい子どもたちがいます。

スパルシャはそういう子どもが共同生活し、学校に通う支援をしている団体です。当財団は、2013年度より6つある施設のうち、女の子が27人、男の子が1人暮らす施設を支援することにしました。彼女たちは広い部屋でゴザを敷いて寝食をともにします。歌や踊り、絵画も学ぶことができます。

去年12月には財団職員が訪問し、現状を視察してきました。その際、子どもたちは医師や教師、警察官など様々な夢を語ってくれました。施設長は「支援を必要とする子どもたちは沢山いる。2010年度以降政府の助成金もない状態が続いており、支援を感謝している」といわれていました。今後も継続して支援を行う予定です。



■継続した支援

◎奨学金支援 ◎身体障がい者施設支援 ◎視覚障がい者施設支援

前年度に引き続き継続した支援も行っています。奨学金支援は9歳から17歳までの子ども達に支援をしています。彼らの親は日雇い労働などで生計を立てています。そのような中、進学したい希望を持っている子ども達に支援を行っています。

身体障がい者施設マルガダルシは女性たちが暮らしています。施設に暮らしながら短大に通うなどしています。また視覚障がい者施設にも継続して支援を行っています。

■2014年度活動計画

今年度は引き続き以下の支援を行っていく予定です。

- 1)奨学金支援 2)ストリートチルドレン施設支援 3)視覚障がい者施設支援
- 4)身体障がい者施設支援

活動地③

ウガンダ　ンゴビャ学校支援報告

■今年度の取り組み

「学校運営支援」

ンゴビャ学校は首都カンパラの近くにある私立の小学校です。当財団は1995年から20年近く支援しています。

ウガンダの義務教育は1年生から7年生(日本の中学1年生)までです。現ムセベニ大統領は「国造りの基本は教育である」として1997年から教育に力を入れています。

そんな中ンゴビャ学校では、現在257人の子どもたちが学校に通っています。また就学前の子どもたちも敷地内のガレージを使い、教育を受けています。しかし、毎日きちんと学校に通っている生徒は100人ほどと言われています。ウガンダは失業率が約60%と非常に高く、子どもが親とともに生計を助けなければいけない実情があるからです。

そんな中で、ンゴビャ学校では学校に行きたくなるような様々な取り組みをしています。

通常の授業やテストの他に、課外授業に行くこともあります。また、音楽や演劇の練習をして地域の人に披露することもあります。教科を教えるだけでなく、いろんな経験をさせて生徒を成長させようと工夫して運営を行っています。

またンゴビャ学校では教室が少ないため、増築したいという希望を持っています。

当財団は今後も引き続き支援をしていきたいと考えています。



■2014年度の活動計画

引き続き、学校運営支援を行っていきます。

1学期　2月7日～4月20日

2学期　5月21日～7月10日　他校との交流会、学園祭

3学期　9月10日～12月5日　修学旅行

職員活動報告

南インドカルカラ地区 新規支援先NGO視察報告

南インドのカルカラは壺阪寺の大観音石像などを作った場所であり、1977年ごろより仏像彫刻事業の支援を行っています。そんな中、今後この地域において学校の支援はできないだろうかという話があり、2013年12月に支援先として見込める学校の視察を行いました。現時点では具体的な支援は決定していませんが、今後検討していきたいと考えています。視察先は3か所あり、学校の選定にはベンガルールのカウンターパートのアドバイスを仰ぎました。



1) 公立学校 Government Higher Primary school Kallaguppe

当財団の支援する事業所の近くにある公立学校です。小学1年生から中学2年生に当たる8年生まで131人が通っています。また施設内には公立の幼稚園も併設されています。生徒の親はカシューナッツ農園の農夫や紙タバコの内職などしており、経済的に厳しい家庭が多いのが特徴です。今までもロッカーなど物品の支援を行っています。

2) 障がいのある子どもの支援学校 Arunodaya special school

ダウン症や自閉症などの知的障がいや、聴覚障がい、視覚障がいなどの障がいのある5歳～14歳までの42人が通う学校です。小学校の先生をしていた女性が運営を行っています。さまざまな障がいを持ちつつも踊りや歌に力を入れており、私たちが訪問した際も歌や踊りで歓迎してくれました。一方で、校長先生より「短期的な支援はあるが、長期的な支援がなく困っている。また、子どもたちは1台のベイカー（荷台のついた自転車）に乗せて通学させているために、何度も往復しないといけない」とのことでした。

情熱をもって子どもたちに接している姿が印象的でした。

3) 工芸職業訓練校 C E Kamath Institute for Artisans

3つ目は工芸の職業訓練校です。カルカラは大観音石像を作った地であるように、石材業が有名な土地です。そこに、カナラ銀行というインドでも有数の銀行が設立した学校です。18歳～25歳までの男性で、将来工芸士として働きたい意志のある学生が1年8カ月ほど寝食を共にして工芸技術を学びます。技術的なレベルも資金的にも豊富であり、支援の必要性は低い学校でしたが、インド中から意欲的な学生が熱心に学んでいるのを目の当たりにし、感動しました。

卒業後は工房などで3～5年ほど修行した後に自立するとのことでした。

法人間交流報告

壺阪寺聚徳会職員 インド研修

2014年2月、社会福祉法人壺阪寺聚徳会が運営する施設で働く職員がインド研修を行い、当財団の支援する場所を訪問しました。

当財団の事務局のある壺阪寺は、国内外の福祉活動を行っています。途上国での支援を一般財団法人アジア・アフリカ国際奉仕財団が、国内の福祉事業を社会福祉法人壺阪寺聚徳会が行っています。普段は障害者支援施設や特別養護老人ホームなどで働く職員にとって、インドはなじみの薄い場所です。

しかし、壺阪寺が社会福祉事業を行っている背景にインドは切っても切り離せず、利用者やその家族からインドとの関わりを質問される、ということもたびたびありました。そこで、職員5名がインドに行き活動を視察しました。インド国内は、石彫事業を行っているカルカラや、アグラのロパ・ムドラ学校を中心に訪問を行いました。

普段は同じ壺阪寺の一員として各自の仕事に取り組んでいますが、インドでの活動地域や実際の仕事の内容を知る機会はほとんどありません。また、9日間にわたり普段話す機会のない職員同士で職場や福祉、インドのことを話すことができ、それぞれの仕事に生かすことができているとのことでした。



大観音石像を作ったカルカラにある先代常盤勝憲師の眠る菩提樹の木のそばで

各支援地支援経費報告

2013年度、各支援地に行った経費の報告をします。

インド アグラ ロパ・ムドラ学校

事業費	
奨学金事業	240,000
放課後課外授業	144,000
職業訓練コース	60,000
校舎修繕事業	3,762,000
先生方への給与支援	570,000
計	4,776,000

(円)

インド ベンガルール

事業費	
奨学金	180,000
身体障がい者自立支援	90,000
視覚障がい者自立支援	36,000
ストリートチルドレン施設支援※	
団体運営費	108,000
職員給与	234,000
計	648,000

(円)

※今年度は初年度のため過去の余剰金等から支出

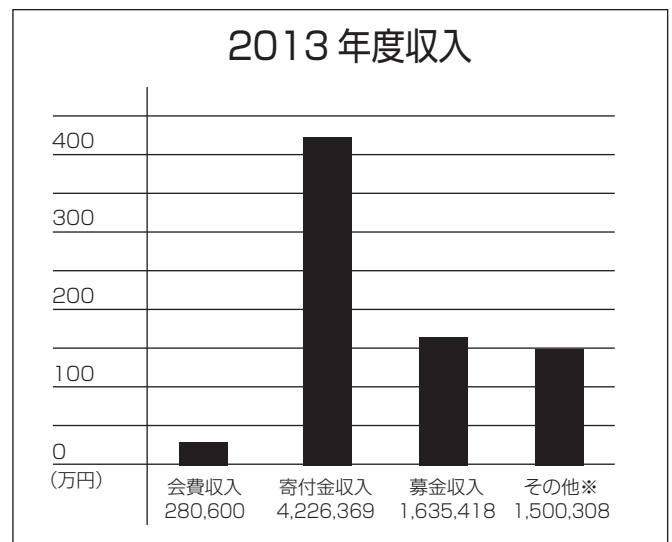
ウガンダ ンゴビャ学校

事業費(奨学金等含む)	242,925(円) 2,500(ドル) (1ドル≒97.17円):送金当時のレート
-------------	---

2013年度収入報告

2013年度は7,642,695円の収入がありました。会費収入は前年と比べると大幅に減っています。これは国内での広報活動が十分にできず、当財団の活動を知って頂く機会が少なかったためと考えています。2014年度は新規会員の獲得、継続して頂けるよう工夫をしていく予定です。

一方、寄付金と募金は例年以上の支援を頂きました。ロパ・ムドラ学校の校舎修繕にあたり、各方面から支援頂いた結果ではないかと考えています。



※その他は受取利息、受取配当金など

子どもたちの将来のために、ご支援をお願いします。

①

会員になる

同封の振込用紙にて申込み
ください。

特典:壺阪寺の参拝料1年
無料、AIV年次活動報告書

②

壺阪寺を参拝する

境内にあるインド物品を販
売しております。

これらの収益は財団の支援
活動に充てています。

③

インドの学校を訪ねる

アグラにあるロパ・ムドラ
学校はタージマハルの受付
前にあります。

希望される方は下記財団ま
でご連絡下さい。

●今後の予定

11月2日(日)「インド祭り」

場所:壺阪寺 境内

内容:インドカレーふるまい(無料)、インド民芸品販売等

同時開催:一般社団法人奈良県鍼灸マッサージ師会によるマッサージ奉仕(無料)

◎当日写真を撮ってくれる方など、お手伝いいただける方も募集しています。

編集後記

ロパ・ムドラ学校には家族で住み込みの用務員がいます。出張中、彼の子どもがよく職員に「何してるの?」と寄ってきます。そんな中、お兄さんに「タージ・マハルに売りに行こうよ」と誘われているのを見て、まだまだ親を助けて働かないと苦しい現状があるのだなと感じました。今年の年次報告書はわかりやすく、支援先や活動内容を理解していただけるように具体的に書くよう心がけました。活動地の理解につながれば幸いです。(岩井)

発行・お問い合わせ

一般財団法人 アジア・アフリカ国際奉仕財団

〒635-0102 奈良県高市郡高取町壺阪3番地 壺阪寺内

TEL:0744-52-3172 FAX:0744-52-3835

Email: aivjapan@hotmail.com

ホームページ: <http://www.aivjapan.jp> (旧来のホームページにご注意ください)